

活動事例

教育支援

支援先

県内高等学校・大学

教育機関の「探求的な学習」への協力

【内 容】

学校教育では、自らが探求的な考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行う「探求的な学習」が重視されるようになりました。当センターは、県内教育機関の要望に応じ、学生の探求的な学習への興味を促す研究事例紹介やグループワーク等の協力を行いました。

【支援事例】

支援事例① 研究事例紹介

当センターで実施している研究開発について、「発酵食品の香りをデザインする乳酸菌研究」等を事例とし、基礎研究・応用研究・開発研究の違いや、研究テーマの見つけ方、研究成果をどのように普及するか等に関する講義を行いました。センター見学も併せて行い、研究に使用した分析機器や加工設備の紹介を行いました。

実施学校機関（参加生徒数）

- ・ R5 年度：茨城県立海洋高等学校（5 名）、茨城県立つくばサイエンス高等学校（88 名）
- ・ R6 年度：常総学院高等学校（16 名）、常磐大学人間科学部健康栄養学科（19 名）

支援事例② 研究開発への協力

海洋高等学校とつくばサイエンス高等学校が連携し、「サバ味噌煮缶詰」の開発を計画しています。開発に先立ち、マーケティング手法である 4 C 分析、市販品と試作品の官能検査及び今後の開発戦略について、講義とグループワークを行いました。

実施学校機関（参加生徒数）

- ・ R6 年度：茨城県立海洋高等学校（4 名）、茨城県立つくばサイエンス高等学校（7 名）

【活動の成果】

「研究事例紹介」では、参加した学生から多くの質問があり、活発な質疑応答がなされました。また、「研究開発への協力」では、参加者全員が真剣に講義を聴講し、グループワークにも積極的に参加していました。学生からは、「普段学べない専門的な内容が勉強できて良かった。機会があったらまた参加したい。」「自分が興味のある分野について深く知ることができ、とても勉強になった。楽しかった。」などのコメントもいただきました。このような活動を通して、当センターの取組を紹介するとともに、地域の人財育成にも貢献していきたいと考えています。



図 1 研究事例の紹介



図 2 サバ缶の官能評価

基礎となった事業

県政出前講座

担当グループ

フード・ケミカル G

グループ長

浅野 俊之

TEL:029-293-7212

主任研究員

飛田 啓輔

主任研究員

岩佐 悟

会計年度職員

澤 畠 真名美